

STE (Shiroi Teaching Expert) の授業紹介 No. 5



白井市立白井第三小学校 伊藤 沙緒里 先生 (図画工作科)

11月8日(月)、6年生の図画工作科の授業でした。「水墨画の技法を使って、花鳥風月を表現しよう。」という学習課題で、初めての水墨画に取り組みました。今までの水彩画で学習した技法を活用し、黒一色でも様々な表現方法を使って、自分なりの水墨画を仕上げていました。2時間で完結する授業でした。子供たちにとって、充実した2時間となりました。

工夫1 作品のイメージを膨らませる工夫

初めにスクリーンを使って雪舟の水墨画を提示しました。社会科でも学習しているので、身近に感じたようです。その後、伊藤先生御自身が描いた水墨画の提示、次に花鳥風月から想像するものをウェビングマップにしていきました。作品作りに入る時も、先生が描いた作品を見に来る児童もいて、イメージを膨らませていました。



工夫2 道具の工夫 & 見るポイントを明確にした共有・鑑賞タイム

教科書にはない、たわし、スポンジ、歯ブラシも道具に加え、今まで水彩画で学習してきた濃淡やぼかし、かすれの方法を実際にやって見せてスクリーンに映し出していました。その後試し描きの時間をたっぷりとっていました。子供は天才。自由な発想で、他にもたらしたり、弾いたり、重ねたりと様々な工夫が見られました。共有タイムでその技法を広めていました。

最後の鑑賞会はポイントをしっかり確認してから行っていました。



工夫3 「失敗しても大丈夫！」意識してプラスの言葉かけ

「あっ、たれちゃったという失敗もぜひ生かしてみてください。」
「いいよ、何枚も試してごらん。」「いいね、これ鳥でしょ。飛んでいる勢いが伝わるよ。」「ねえ、これどう生かす？何かに使えそうだね。」「先生も思いつかない方法だ。」

そんな先生の温かな言葉かけで、子供たちの作品がどんどん変化していきました。「あっ。」と言って手を止めた後、もう一度同じことを試し、思わぬ表現に満足げな表情の子もいました。



★伊藤先生が大切にしていること★

- ・事前に道具や糸のこ等を使ってみて、安全面等の配慮事項を確認している。作品見本も作り、作り方や手順を子供たちがイメージしやすいようにしている。
- ・どういう部分が良いか具体的に声掛けし、苦手意識がある児童も、挑戦できるようにしている。自信をもってもらいたいので、たくさんのプラスの言葉かけを意識している。

「挑戦している姿を見ると嬉しくなりますね。」とにこやかにお話ししてくださいました。